

2025 年度入学者選抜 III期

心理学実践研究学位プログラム 臨床心理分野

解答例

■ I.

- a. ナラティブ b. 形式的操作 c. 自伝的 d. ICD (国際疾病分類)
e. コンフリクト f. 流動性推理 g. ブレイン・ストーミング h. ゲートキーパー
i. 二重盲検法 j. レスポンデント条件づけ (古典的条件づけ) k. 副交感神経 l. 平均値
m. 心理的安全性 n. 社会内処遇 o. プログラム学習 p. 可視的差異 (可視的変形)
q. 情動的サポート r. 心神耗弱 s. 賦活症候群 (アクチベーション・シンドローム)
t. ワーク・エンゲージメント

■ II.

1. 回答のポイント

担任や教科担当教員その他の関わりがある人間、保護者からの情報収集、授業中の行動観察 (他者や他児との関わり、授業への理解度、集中度等)、必要があれば簡易的な心理検査を行い、発達状態、虐待を含めた環境、疾患の可能性の観点からアセスメントを行う。

2. 回答のポイント

- ・基本的信頼感・対象恒常性の促進：安定した枠組みと継続的関係が安心感につながる。
- ・クライアント理解/自己理解の促進：一定の刺激により反応の変化が見える。例：遅刻やキャンセルの意味。
- ・他のクライアントとの兼ね合い：他の予約時間への影響を防ぐ。公平性が担保できる。
- ・無用な陰性感情の回避：面接予定を優先できる。相手の都合に振り回されず感情が安定する。
- ・生活リズムへの寄与：クライアントの生活の一部となり、行動や感情の生活を整えて支えられる。

3. 回答のポイント

独立変数は治療法 (心理療法と薬物療法)。従属変数は BDI-II で測定されたうつ状態の程度。実験デザインは 2 要因混合計画で、群間要因 (治療法) と群内要因 (測定時期) がある。適切な統計検定方法は、まず 2 要因混合計画の分散分析であり、検定結果が有意だった場合、以下の追加検定が必要となる。

単純主効果の検定、多重比較 (例：Bonferroni 法や Tukey 法)、効果量の算出 (例： η^2 や Cohen's d)。

これらの検定により、治療法の効果や時間経過による変化、そしてそれらの交互作用を詳細に分析することが可能となる。

4. 回答のポイント

理由は複数考えられるため、インフォームドコンセントが得られない場合を除く、二つを列挙して、理由を説明できているかどうかのポイント。以下、理由の例。

- ・緊急性が高い場合。自傷他害の恐れがあるなど、通常の心理療法よりも安全確保が優先されるから。
- ・特定の心理療法に対して不快感や抵抗を示す場合。心理療法に消極的、拒否的になってしまう可能性が高いから。
- ・多重関係にある場合。クライアントと心理職が家族や友人であるなどの場合は、倫理的葛藤を引き起こす可能性が高いため。
- ・心理職に専門知識がない場合。クライアントの問題に対して専門知識がないと、逆効果や不十分な対応となる可能性が高いため。
- ・他に優先される問題がある場合。例えば、経済的困窮などが主な問題の場合は、適切な相談先にリファーすることが優先されるから。
- ・クライアントの転移感情や、心理職の逆転移感情が強すぎる場合。心理療法が進展せず、逆効果になる可能性が考えられるから。

■ III.

研究の背景・目的を正確に捉えた上で、統計データを読み解き、研究目的と得られた結果を整合性をもって論理的に記述する能力を評価することを意図して出題している。

著作物の著作権許諾処理の問題により解答または解答例を公表することはできない。